

会報

日本漫画家協会



国内略称 漫画家協会
国外呼称 JAPAN CARTOONISTS ASSOCIATION
国外略称 J. C. A.

1967. 10. 15

No. 12

『漫画100年』展特別号

~~~~~ 第1回会員展迫る！ ~~~~~

## 奮闘努力せられたし！

待望の「日本漫画家協会第1回展」を昭和43年1月2日から2週間、東京池袋・西武百貨店において開催することになりました。協会員各自の、自由な構想による自由な漫画の出品、ということがもちろん理想ではあります。が、今回は、会場提供の百貨店側、協会と共に開催の読売新聞社側の切望により、明治百年を記念するべき頭の催しとして意味あらしめるため、「明治百年と未来」とテーマをきめ、それに即した漫画をお描き願うことに決定いたしました。何卒御諒承下さい。

以上のような事情で、作品の時代的偏重と重複を避けるため、当然、どなたに何を描いていただくか、をきめなければなりません。そしてそのことは、一人々々の方に相談申し上げること、技術的に不可能なので、潜越ながら、理事会におまかせ願うことにいたしました。

「あなたはこれを」という通知が届きましたら、内容・寸法・期日、その他の規定厳守のなかで、最高の力作をおよせ下さるよう、お願ひいたします。いろいろな条件の枠が、制作意欲を減退させるということはあります。しかし、力作傑作は、作品自体が無限のひろがりをもって見る者に迫る、とわたしは思います。それだけのものを描きたい、と出品者の一人であるわたしは、自分にいいきかせています。

ともかく、この展覧会により、われわれの協会の存在を、その意義を、広く一般に知つてもらおうではありませんか。奮闘努力いたしましょう。

日本漫画家協会

理事長

辻 まねこ

『漫画100年』展

## 実行委員会報告

本協会第1回展の企画については、前号（第11号）で7月末までの進行状況を手塚理事から報告したが、実行委員会はその後も引き続き具体案の検討を進め、第4回実行委員会（8月28日・赤坂プリンスホテル）および小委員会（9月19日西武プリンス会議室）などの協議を経て、大体つぎのような方針をきめた。

### 1. 名称について

企画の当初は漫画百年展とあったが、9月6日の理事会で正式タイトルを『漫画100年』としその左脇へサブタイトルとして『日本漫画家協会第1回展』と添え、別に右脇へキャッチ・フレーズをつけることになった。しかし理事会では「笑史にっぽん」「明治から未来へ」など9案が出たまま時間切れとなり、そのまま実行委員会へ選択を委任されたので、19日の小委員会（プロデューサーおよび特設事務局責任者会議）で研究の結果、結局展示内容の広さを示

すキャッチ・フレーズとして「明治から未来へ」を採用し、単に過去百年の回顧だけでなく夢多き宇宙時代の未来百年への展望にも重点が置かれている点を強調することに一致した。

### 明治から未来へ 漫画100年

—日本漫画家協会第1回展—

- とき 昭和43年1月2日～16日
- ところ 東京・西武デパート・7階

### 2. 経費について

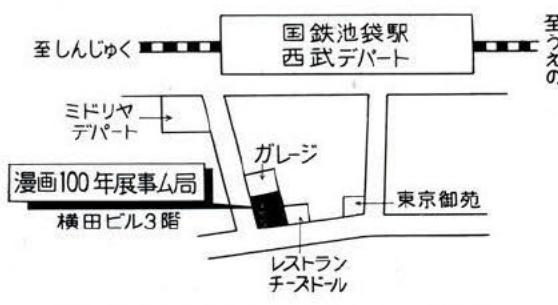
何をやるにも先だつものことである。既報のように予算額の首位と次位を占める会場設備費と宣伝費はそれぞれ西武と読売とで負担してくれるようになったので、協会側は運営諸費用を受け持つが、その財源はできるだけ出品者の協力でまかなうことになった。実行委員会は種々検討した結果、最少ギリギリの必要経費を確保するために、  
『出品者（1人・1点）1,000円』  
の払い込みをあらかじめお願いすることになった。この内

訳は、パネル代（水張り・装飾代を含む）および通信連絡保管その他の実費であって、いわゆる「出品料」という性質のものではない。協会の基金へ食いこまぬ独立採算の立前で準備を進めている難かしさをご了解ねがって、実費負担に協力して頂きたい。

なお、開会前の運営支出については、9月6日の理事会で実行委員会に対しひとまず協会一般会計より20万円を融通することがきめられたので、これによって展覧会準備も軌道にのることができた。このほか理事会から漫画デザインによる、紙ナフキンやふきんセット、絵はがき、手ぬぐい、のれん、マッチ、タコ（白地のミニチュア・タコに絵をかき入れる）等の会場即売案が提示され、補助財源案として10月以降の実行委員会で研究することになった。

### 3. 臨時事務所開設

展示品の受けつけと管理に万全を期するため特設事務局を会場のすぐ近所に昭和42年11月20日より昭和43年1月16日まで、日曜祝祭日以外毎日10時から4時まで次の通り開くことにした。（カット地図参照）



東京都豊島区南池袋1-20-1 横田ビル3階

日本漫画家協会 100年展事務局

（担当者）山崎邦保氏（実務連絡係）窪寺希和子氏

電話

この特設事務局で作品の受けつけと管理をして下さる方は、協会の使命と催しの趣旨に対する文化的理解から特別の好意によって引き受けたもので、協会員ではない。したがって、実行委員会の事務局担当者側からは、おのざわさんいち、すずき大和、矢尾板賀氏らが、毎日交替で特設事務局に出勤して、受け入れの確認と出品リストの作成に当たることになった。また、実費負担金の送金先は（なるべく小為替）、一般会計と区別するため次のようにした。

佐川美代太郎氏方

日本漫画家協会 100年展会計係

作品送付先と送金先とが同一場所でなく、出品者には大変お手数をおかけすることになったが、事務分担上のやむを得ない事情があるので、あしからずご配慮頂きたい。

### 4. 作品について

本展覧会は全会員展を原則としているので、前号に一部の意見として伝えられた「会費未納者はご遠慮ねがうかもしれない」という考え方は結局採用されず、意欲ある会員の

すべての参加によって、第1回展の意義を十分に高めようということにきつた。

④テーマ 今回は会場構成や展示効果を考慮の結果、随意題材方式を避け、全作品が何らかの意味で、漫画100年（明治以来の百年および未来百年）に関係ある内容を盛ることにし、このテーマ分担表を実行委員会が作り、（担当責任者近藤日出造氏）10月中に各会員宛連絡するようする。制作にワクをはめるのはもとより不本意ではあるが、空前の多人数参加の大漫画展にテーマ重複過多を避け豊富なバラエティを確保する必要上、この方式に踏み切った。

⑤サイズ（絵のかかれている部分）は日本標準規格寸法表のB3すなわち364×515ミリメートル（曲尺換算12×17寸）に統一するがタテ、ヨコは自由。用紙はB全判の4つ切り大相当を使用して、パネルに張るための余白を必ず残すこと。作品は平面（立体でないもの）に限る。

⑥題名、キャプション、住所氏名は作品の裏面に書くこと。

⑦〆切り 11月30日 必着厳守!!

⑧送付先 漫画100年展事務局宛

作品は地方支部は一括で、東京在住会員はできる限り特設事務局へ持参ねがいたい。（午後4時までに）

⑨出陳作品は展覧会終了後、大宮市の漫画会館に一括収蔵。ただし返還希望者は出品の際返送料を添えてあらかじめ申出すること。

⑩実費負担金は参加申込みと同時に会計係宛送金していただきたい。

以上によって『漫画100年』展の大筋が本決まりになったので、実行委員会は直ちに会場全体の構成にかかり、すでに発表された各セクションの計画案をとり入れて、会場のフレイアを伝える立体見取り図（別掲）をつくり、それぞれの持ち場に献身を続けている。

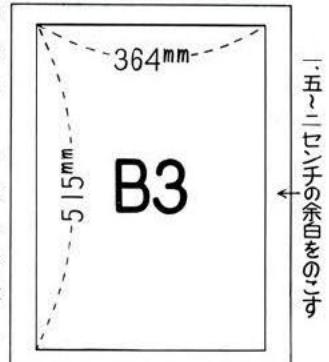
⑪モニュメント 目下、横山隆一氏のもとでデザイン考案中。

⑫マンガ丸 柳原良平氏が担当を快諾。長さ5メートルのマルゴトの豪華船、甲板や船室内に漫画の主人公たちがイッパイ、和氣アイアイといったもの。作者は大はりきり。

⑬立体マンガ 茨田茂平氏が受け入れ責任者となって、出品希望者からの連絡を待っている。ただし陳列ケースに入るようなものを原則とし、あまり巨大なものはスペース割愛困難。（なお、希望者は茨田個人あてTEL、その他の方法で10月末日まで連絡ください。会場にあった共同制作の方法も考えている）

（5ページへつづく）

### B全紙の四ツ切り



## 在京理事会報告

1968年1月2日から半月にわたって開かれる、協会最初の大漫画展の手配を中心議題とする在京理事会は9月6日午後1時半から5時まで平河町都市センターで、近藤理事長、秋・西川両常務理事ら16名出席、主要議事つぎの通り。

◆日本漫画家協会第1回展「漫画100年」実行委員会報告の件（手塚治虫理事欠席のため宮下森理事より報告を受け、協議の結果つぎの諸項を決定）

(1)漫画100年展専用の特設事務局を会場から歩いて3分の池袋駅前横田ビル3階に置き、出品の受けつけと管理そのほか通信連絡いっさいの窓口とすること。

(2)作品は平面（立体でないもの）に限り、寸法はすべて日本標準規格B・3に統一する。

(3)会場費（西武負担）宣伝費（読売新聞負担）以外に、運営費（協会側負担）として必要な財源を確保するため、協会会員は出品と同時に作品1点につきパネル代その他の手配実費として1,000円を払いこむこと。

(4)出品締め切りは11月末日上記特設事務局必着を厳守し、遅れたものは受け入れない。同一テーマへの多数の制作が集中重複する弊をできるだけ避けるため、あらかじめ実行委員会がテーマ割り当て表を作り、出品者各自へめいめい

の分担テーマを通知して制作にかかってもらうこと。

(5)出品実物は、あらかじめ特別の指定を受けない限り、原則として協会に帰属し、協会は東京および地方での展観が完了した後これを一括して収蔵施設完備の北沢楽天記念大宮市立漫画会館（東京北郊）に委託する。

◆会報特別編集の件（井崎一夫理事報告）＝漫画100年展準備進行状況を全会員に詳報して協力に便するため第12号を10月に発行し、第13号（新年号）は来展者（1月2日～16日・毎日平均8,000人予想）への配布をも考慮して特別編集企画を進める。

◆著作権関係法律顧問の件（小島功理事報告）＝著作権および稿料関係などの法律問題につき突発的に協会各員から火急の照会を受けた場合に備えて専門家と連絡をつけておく必要がしばしば感ぜられていたが、今回鈴木平八理事からこの種の事件に特別の关心を持つ加藤康夫弁護士を推薦されたので、このほど協会の記録や刊行物など研究に必要な参考資料を一括提供し、将来の協力に期待することとなった。

なお同氏は協会メンバーからの相談に対しては奉仕的なレートで便宜をはかるむね申し出があった。

中央区有楽町1の4小谷ビル7階 三原橋法律事務所（電話591-8530）夜間は  
（電話

へまづ電話で連絡されたいとのこと。

## 〔事務局記録〕

1967.7.12. 漫画100年展実行委員会第3回打ち合わせ会（赤坂プリンスホテル3—5時）で西武百貨店および読売新聞の各担当者と初顔合わせ。

7.15. 某探偵社員から訪問の予告を受けた協会員が、右探偵社の素性や業績などにつき照会してきたので、調べて回答。

8.16. 会報第11号（100年展開催手配の速報のための臨時号）発行。即日発送。

8.24. 理事会招集状発送。

8.28. 100年展実行委員会第4回打ち合わせ会（赤坂プリンスホテル2—5時）で出品方式および運営分担の細目を協議。同時に開催場所に近接する池袋駅前に100年展専用事務局の特設を決定。

8.30. 小島功・鈴木平八両理事から紹介された法律エキスパート加藤康夫氏へ著作権保護関係文献や稿料係争記録など共同研究資料として一括提供。

9.6. 在京理事会（別掲）

9.6. 新入会員として下記4君を登録。

木川かえる（木村きよし理事紹介）

電話

北村ただし（永井保理事紹介）

電話

五月（さつき）かおる（根本進理事紹介）

電話

中森コーコ（木村きよし理事紹介）

電話

9.15. 漫協連第11号（タイプ刷り）で理事会議事要旨を全役員へ速報。

9.22. 美術著作権連合の理事会から加盟会員の著作権表示用シール（証紙）見本提示を受ける（漫協会員へ年内に無料配布の手配整う）

9.23. 美術著作権連合の次回理事会で法律顧問を招いて著作権保護係争ケースの報告と研究の会を催すことに決定し、その資料として本協会刊行の「漫画の著作権」20部分与方要請あり、小島理事と打ち合わせ応諾。

## 地方支部アドレス一覧

支部アドレスがだいぶ変わったので新リストを掲げました。なお前号に北海道支部を西町にあるのは西野の誤まりでした。

北海道支部

柿本八郎方

名古屋支部

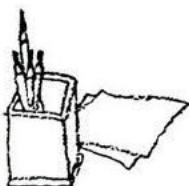
沢村シロ方

関西支部

木村きよし方

九州支部

原真人方



## 漫画資料についてお願ひ

(須山計一)

こんどの漫画100年展に「漫画資料特陳」をいたしますが、会員またはそのお知り合いで下記の漫画資料お持ちの方があつたらお知らせ下さい。お借りできたらさいしょの会場でだけ陳べたいのです。責任をもってお返します。

## A 明治期

- 一鵬斎芳藤のこども漫画、判じ絵
- 河鍋暁斎の著書（「暁斎画談」など）
- ビゴー（「国会議員」の本など）
- 長原止水（「とはえ」「めざまし草」）
- 北沢楽天（「東京パック」創刊号）
- 小杉未醒他（「方寸」ローマ字漫画号）
- 日清、日露戦関係の漫画
- 渡辺与平 こども漫画もの

## B 大正期

- 「日本一」漫画家特集号（大正9年）
- 樋島勝一「正ちゃんの冒険」
- 麻生豊「ノンキナトウサン」
- 「関東大震災漫画集」
- 下川四天「凸凹人間」その他
- 宮尾しげを「団子串助漫遊記」その他

## C 昭和期

- 久保陽編「マンガマン」
  - 読売新聞付録「読売サンデー漫画」
  - 田河水泡「のらくろ二等兵」その他（原版）
  - 島田啓三「冒險ダン吉」（原版のもの）
  - 大田耕士「カリカレ」
  - 坂本牙城「タンク・タンクロード」
  - 戦時漫画ポスター、伝單の類
- 以上のはか、地方漫画誌や各会員の出版本などを提出していただくと幸です。連絡は郵便または電話で

須山計一まで。TEL

—日本の漫画雑誌は幸わせ?—

## コミック・コード

通俗、低俗、さらには俗悪のレッテルをはられっぱなしのアメリカのコミック・ブックだが、日本よりは、はるかに道徳倫理規定のうるさいアメリカである。



（コミック・ブックの右肩に必ずついているコミック・コードのマーク）

大手デル出版系にはついていないが、一般のコミック・ブックの右上に、必ずコミック・コードのマークが入っている。

第一次大戦後ハシランした、文字通り低俗で俗悪なコミック・ブックに、宗教団体、教育団体が立ちあがつてコミック・ブック倫理委員会を組織したのが最初。コミック・コードの入っていないものは小売り店、ドラッグ・ストアでの販売を不能にしてしまったといわれている。

コード・マークのつかない日本の漫画雑誌は幸わせと申すべきか。

(R・M)

## ■新刊漫画資料紹介

les chefs d'oeuvre de

## LA BANDE DESSINEE

フランスのプラネットから刊行された新刊である。コミック・ストリップス著作集のタイトル通り、初期の作品から現代にいたる欧米の代表的な作品約百点のアンソロジー。ユーモアもの、英雄もの、スーパーマンもの、動物もの、妖怪ものと5つに分類し、各章のはじめに、作家及び個々の作品について手ぎわよい解説と紹介が書かれてある。

フランスで刊行されたので、漫画のキャプションは、全部フランス語訳だが、色刷り作品は、アメリカのものなど本国版より美しいくらい。

巻末に1820年から1967年までのコミック・ストリップ小史もあって、資料としては大変よくまとまっている。5,180円

(水野良太郎)

## 『漫画100年』展

## ★ 作品締切

11月30日(木)

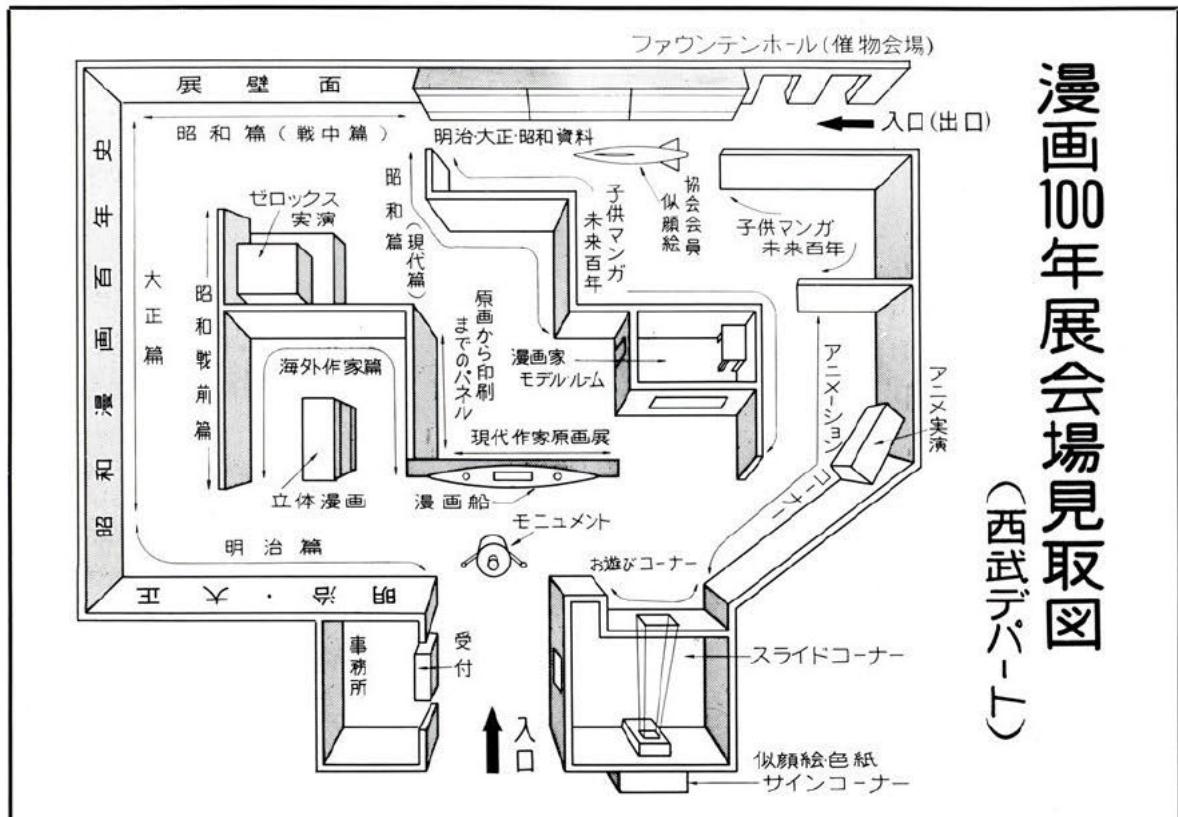
《必着厳守》

## ★ 搬入または送り先

東京都豊島区南池袋1-20-1

横田ビル3階

漫画100年展事務局 TEL 987-5251



(2ページよりつづく)

(4)明治100年漫画史 本展最大のハシラ。明治、大正、昭和三代の重大事件をテーマに数百氏が手分けで全力投球の傑作ぞろい。担当責任者の近藤日出造氏は睡眠時間まで縮めて連日連夜ねじり鉢巻。

(5)漫画資料展 明治から現代までの有名な漫画家の資料をズラリ。パンチをはじめとした雑誌を中心に貴重なものが山のよう。

コレクション自慢の須山計一、松下井知夫、小川哲男、水野良太郎の各氏が撰りすぐった盛観。

(6)漫画が本になるまで 高さ2メートル、巾5メートルの壁面に、画稿から印刷・発行までの過程が、ひと目でわかる興味深い構成。

おもしろくて学術参考?といったもの。担当はコリ性のベテラン井崎一夫、おおば比呂司両氏。

(7)海外漫画 グット、ユニークな岡部冬彦、滝谷節雄氏担当、研究中。

(8)会員似顔集 デザインをやなせ・たかし氏が考案中。協会事務局へ集まった協会メンバー自画像コレクションの大パレード。

(先般、会報で募集した似顔未提出の方は、いまからでもすぐ協会事務局あてお送りねがいたい)

(9)アニメーション展示 漫画がうごくすべてを公開。手塚治虫氏とおとぎプロが出品。

(10)漫画の部屋 漫画出生の秘密、興味を集める仕事部屋を

ソックリ再現して、実際にかいでいるところを見せる。大きさ5メートル四方。担当は赤塚不二夫氏とスタジオ0。

(11)オートスライド 子供漫画家の作品を、1人1枚当たり計130枚ぐらいをスライドでみせる。また、1日10人位の会員がクモリガラスに漫画をナマがきして裏からみせる。秋玲二氏が研究中。

(12)似顔絵コーナー 清水嵐、針すなお、中村伊助、森比呂志、関根義人、八島一夫氏らが中心になって、1日4~5人のメンバーで似顔絵会をひらく。

(13)未来100年史 秋玲二氏が担当し、子供漫画作家(133名)に、未来のユメあふれるテーマをそれぞれ依頼済。

(14)会場入口 やなせ・たかし氏がうでをふるってディスプレイを考案中。

(15)宣伝ポスター もしろくて、格調高く『アッ!』といわせる作品を、水野良太郎氏がデザイン中、乞ご期待。

(16)劇場(ファンターンホール) 入場は、ここだけは有料。だしものは映画(アニメーション)、スライド、人形劇、唄、マンガ合戦、腹話術、チビッコ・漫画コンクール(批評・授賞式)等々。責任者=近藤日出造・西川辰美両氏。

(17)作品のパネル仕上がりはやなせ・たかし、伊達圭次両氏が点検する。

(18)会場内の各コーナーの総合責任者は、(1)~(8)(12)は杉浦幸雄氏、(9)~(11)(13)は秋玲二氏が担当。

(実行委員会事務局・宮下森)



■日本漫画家協会創立10周年記念事業の1つとして、超音速旅客機 SST（日米間タッタ3時間）を借り切り、協会員全員500人を乗せて世界一周スケッチ旅行をやりますと、コンナぐあいになります——という大模型が漫画100年展の西武に飾られることになりました。柳原良平さんの作るマンガ丸の船上には、のらくろや、ノンキなトーサンや、サザエさんなどが乗り合わせる模様ですが、私たちの作るSST（1機150億円！）のほうでは、両側の丸窓（模型での直径5センチ）から乗客の顔（すなわち協会員の自画像）が見える趣向になっています。自画像はすでにこの春の総会出欠回答ハガキで300人以上集まっていますが、まだ提出をお忘れの方は、21世紀のスーパーソニック、トランスポートSSTに乗りおくれないように、この際お早くどうぞ！

■日本漫画家協会創立20周年記念事業の1つとして、人工衛星JCA号（地球一周タッタ2時間）を仕立て、前記のSSTに乗りそこねた協会員を全部乗せて宇宙遊覧スケッチ旅行をやると、コンナぐあいになります——という大模型をついでに作ってみないかとプロデューサーのやなせ・たかしさんにいわれました。予算は発射装置つきで1,000億円ぐらいですが、模型はその100万分の1ぐらいで出来ます。だれか出してくれませんかなあ。なにしろ日本中の漫画家が、歴史はじまって以来はじめて一団となって協会を結成し、その協会が創立3年目で初めてオール・メンバー展を開催し、日本漫画界空前の規模でもって、明治100年の正月から、たのしい笑いと夢を全国民へ贈ろうという意気込みなのですから、10万円ぐらいポンと出してくれる人があっても、ちっともふしぎじゃありますまい。10月中にお電話くだされば、間に合いますが、なるべくお早くどうぞ。（係り、協会事務局・平野敏光）

■「そろりと参ろう」と発足した漫画家協会ではあるが、今や戦機熟す！<各員一層奮励努力せられたし！>のZ旗は掲げられた。このところ、近藤理事長、手塚総指揮、はじめ実行委員名氏の奮戦ぶりはめざましい。会員全員の作品割あてを一手に引き受けた理事長は、「やろうと思えばどこまでやるさ……」と、例のたのもしい笑顔をみせてニッコリ、どこにその時間をさくのかと首をひねりたくなるほどハリキリぶり。

「たいへんだよ、ボカア死にたくなっちゃったよ…」と、プロデューサーやなせ君がいう。この人、このセリフが出ると、単行本が出来、懸賞漫画をさらっちまうクセがある。

みんな、やる気充分なのである。

■「じつは、会報まだ読んでないんでね……」理事会席上でも、こんな声をきくことがある。会報部としては、こんな情けないことはありませんわけだが、前号、本号をトクとご覧のうえ、メ切搬入方法をまちがえずに、無駄のないよう奮励努力していただきたいもの。

## 消 息

（事務局あてのご通知から摘録）

**久里洋二君** 「久里洋二デモンストレーション」として(1)7つの目のアニメーションを新宿紀伊国屋ホールで9月2日 (2)テクニック・アニメーション展を同画廊で9月1~14日 (3)幻想画展を新宿椿近代画廊で9月1~13日。別に赤坂草月会館アートセンターの「世界の新アニメーション」ヘモントリオール受賞作「花」ほか5点を出映9月18~28日。

**永井保君** ほか4氏と共に第3回「四行展」を銀座文春画廊で8月28日~9月2日。

**佐藤まさあき君** 佐藤プロダクション主催「劇画展」を新宿2丁目コボタンで8月23~31日。

**山田吉治君** 昨41年4月26日腎臓炎で永眠されたむね実父与三郎氏から8月22日お知らせを受けた。

**水野良太郎君** 「POPアート即売展」銀座みゆき通り三愛店で10月1日~16日。

■小粒ながら投稿原稿「コミック・コード」たいへん興味ぶかく拝見した。

じっさい、この国の漫画誌の乱立は、ちかごろ特に目にあまるものがある。新雑誌誕生大いに結構ではあるが、こう粗製濫造、ゲテモノ横行では、早晚、自壊作用が起ることは明白である。

このさい、目のさめるような漫画誌登場を待望するのは、私ばかりではあるまい。一部業者は出版事業の使命感もなにもあったものじゃないのだ。「下等ザラ紙を使用しないとツカ（本の厚み）が出ないんでね……」と広言した編集者がいた。

形勢不利とみるや、こうした手合は、サッとパチンコ業かなにかに転向しかねないんだな。捲きこまれまいぞ！

■会報部も大いにハッスル、来月中旬（11月）までに、もう1回「展覧会」号を特集する。その後の実行委員会報告と、地方支部側の製作状況など、なるべくくわしくお伝えするつもり。展覧会に関する質疑応答欄も設ける予定です。

なお、本号に使用した図解は、会員、中村初江さんの奉仕によるもの、誌上をかりて御礼申しあげる。

（井崎一夫）

—カット・おおば比呂司—

1967.10.15 No.12 『漫画100年』展特別号

発行所・日本漫画家協会事務局  
東京都中央区銀座西2/5（銀座ビル2階）電話(561)3834番  
振替口座(東京)1141番  
編集・発行人 近藤日出造  
印 刷 所 (株)好文堂